

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171300072		
法人名	メリーライフ株式会社		
事業所名	グループホーム里の家大曲 もみじ		
所在地	北海道北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2番地2 TEL 011-377-8373		
自己評価作成日	令和3年12月6日	評価結果市町村受理日	令和4年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したもとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆつくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JieyosyoCd=0171300072-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和4年1月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4つの理念があるが、一人ひとり職員が理念の意味を理解し日々のケアの中で実践できるよう努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年も新型コロナの影響で地域活動はなかったが町内会の一員として認知されており、絵手紙サークルの方が利用者の誕生日の絵手紙を作成してくれるなど付き合いは続いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため地域への貢献活動はほとんどなかったが、感染状況によっては近隣の小学校や講演など認知症を理解して頂ける取り組みをしていく予定。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策のため運営推進会議は少人数、短時間に限定し開催している。その中で最近の様子や活動報告など適時行ない、意見交換を図っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナの影響で積極的な活動は行なえていないが、報告事項は電話やメールを用いて連絡を取り合っている。3回目のワクチン接種についても連携を取りながら進めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	交通量が多い場所の為、玄関の施錠に関してはご家族の理解を得ている。身体拘束に関しては委員会だけでなくリモートを利用しての内外研修で理解を深め、職員間で自分たちのケアに問題はないか都度確認しあっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、内外での研修で学ぶ機会があり、学んだことを職員間で共有し日々のケアに活かしている。昨今はコロナ禍により虐待が表出しにくい。自分たちのケアに問題はないのか自問自答していくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に保佐人がついていた利用者もいたため、後見人との違いも理解している。また、包括支援や社会福祉協議会にも権利擁護に関して気軽に相談できる関係性を持っており活用できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては管理者が行っている。その際は十分な説明を行ない、ご本人、ご家族が不安や不明な点を抱かないように都度確認しながら契約を交わすよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは常に連絡を取り合い、要望もしくは意見の言いやすい関係性を築けるよう取り組んでいる。また、意見を運営に活かせるよう管理者は窓口となり都度受付できる体制を整えている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は管理者に伝えている。管理者はそれら意見や提案、要望を集約し代表者へ報告している。その上で、できる範囲のことを反映させられるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は個々の職員の事情を理解している。勤務体制に関しても、可能な限りそれに見合うような形で構成されている。代表者も処遇改善交付金等を活用するなど一人ひとりのモチベーションアップに繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモートを活用した研修を定期的で紹介したり参加機会を設ける等、ケアの質向上に取り組んでいけるよう努めている。ZOOMなど分からない職員へは管理者と一緒に入り教えるなどしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの影響で今年も多くの機会はなかったがメールなどの媒体を利用し、お互いの近況を報告しあい意見交換をしたり、サービス向上にむけての取り組みを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後はご本人の緊張を和らげるよう、話しかける頻度を多くし、コミュニケーション重視の対応を行なって安心に繋がるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は特にご家族のご希望をお聞きしている。また質問などを言いやすいよう、対応に配慮を行なって関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めの時点で利用者ならびにご家族の中で何が一番課題となっているのか、必要としているのかを抽出し、優先順位を決めて取り組むようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを見極め、女性は調理補助、男性は掃除や除雪などそれぞれの得意とする分野を行なって頂き、自分らしい生活、支えあえる生活ができるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	昨年に引き続き新型コロナの影響で、通常の面会はできていないが、メールや支払い時に来設された時は最近の様子などの説明行っている。リモート面会ではお互い元気できようとう励まし合う機会を持って頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ対策で面会など制限がかかっているが、電話の取次ぎなど馴染みのある方々への対応は行なって途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブルを回避するため、席の場所には注意をはらっている、特に入居して間もない利用者には安心感をもていただけるよう職員が間に入り表情や言動に留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも連絡が来て、コロナ禍でのホームの様子を心配してくれたり、逆に利用者の様子はどうかと確認したりするなどお互いの近況を報告するなど良好な関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望の多いカラオケや外食など積極的な活動は行えずにいるが、代替として食事会など室内でも喜ばれる行事の立案を行ない実施している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートで生活歴の把握を行ない、ご家族への聞き取りも行なっている。また入居者間の何気ない会話でかつての生活歴の把握を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	STVテレビが好きな方、ドリフの番組が好きな方、パズルが好きな方など一人ひとりの好きな過ごし方、自分らしい生活スタイルの把握に努め取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	表現できる方は直接聞き取りしている。会議で意見を出し合い、介護計画の作成に取り組んでいる。また、ご家族にも来設時や電話、メールなどで最近の様子を報告したうえで希望要望を聞き取り、プランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中でのちょっとした変化や気づきを職員間で情報を共有できるように申し送りノートや日々のケア日誌に載せておくなど介護計画の更新に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢社会に伴い、特にご家族からは経済的な負担や老々介護の相談など様々なニーズがある。対応できそうな場合は可能な範囲で一緒に取り組めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響で今年も地域のボランティアの方々、町内の方々との交流は通常のようにできないが、地域の中では認知されており、常に連絡をとれる関係性は築けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新型コロナの影響で往診や受診にも制限がかかってはいるが、リモート診療の利用で、体調の変化などを逐一報告し適切な医療を受けることができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の日々の体調やバイタルの変化、特変事項など訪問看護の際に報告している。必要に応じて主治医にも連絡して頂き指示を仰げるように連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良や予期せぬ怪我で入院される時は、協力医療機関と密に連絡をとり、治療後は早期に退院できるよう、居室内など環境面でも受け入れ体制を整える体制をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しつつある利用者は、早めの段階でそれに向けての説明を行なっている。性質上、医療的処置は行えないがホームでできることを心を込めて行い、終末期に向け穏やかに過ごしていただけるようチームで支援する対応を行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急搬送を行なう時は、マニュアルに沿って対応を行なっている。緊急時に持ち出すファイルも準備し有事の際、動けるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防や町内会の方々が参加しての訓練は行えないが、書面を使つての確認作業や消防局が作成した災害の動画を視聴する機会を持つなど適時行ない、消防局にも申請をして了承を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の失敗に関してはプライバシーに配慮して、他者へはそれと分からないような隠語を用いて職員間で情報を共有し対応にあたっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日には何を食べたいか、また月の行事にはどんな物を食べたいかなど、具体的に例を挙げ選んでいただくなど自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をしたいのかをお聞きして提供している。静養やDVDや好むTV番組、ゲームやぬいえなど希望をお聞きして提供を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を表出できる方へは、希望する衣類を提供している。可能でない方へはご家族から提供された衣類を着ていただき、写真をご家族へメールするなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日の献立が何であるかは説明を行なっている。調理補助も可能な利用者へ提供を行ないコミュニケーションを図りながら共同、共生の生活を意識できるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の状態に合わせている、嚥下に課題のある利用者へは刻みやゼリー状にするなどの対応を行なっているが、食材によってはそのまま提供するなどできる限り美味しいと思える食事を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。自力では行なえない利用者へは全介助で行なっている。磨き残しもあるため都度口腔内の確認も行っている。必要に応じて訪問歯科の治療及び助言を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンは排泄表の利用で把握し、時間をみてトイレ誘導を行なっている。拘縮によりトイレでの排泄が困難な方もあるのでその場合は保清に十分配慮しながら対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	根菜類の野菜やヨーグルトなどを適時用いることで便秘症状の方へは配慮している。また水分摂取の声かけも都度行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	適宜希望に応じた入浴支援をしている。入浴を拒否する方に対しては、職員間で話し合い、どのような声かけで入浴されたかなど情報の共有を図りながら気持ちの良い入浴ができるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力の低下がみられる方へはその日の状態により日中の静養を提供している。夜間眠れない方へは日中のレクを増やすなどリズムを作っていくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては、協力医療機関または薬剤師より副作用の説明もあり、それに沿った対応を行なっている。誤薬には充分注意しながら2名で確認作業を行い徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴を考慮してそれに沿った声かけと対応を行なっている。調理補助を含めた家事、冬期間の除雪や掃除など適性合わせた支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響で今年も外出や面会は殆ど行えなかったが、感染者が減った時期はドライブ行事を行うようにしていた。またコロナ禍でもユニット内で楽しめる行事など希望をお聞きしながら支援を行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	昨年同様、外出はもちろん買い物に出かける機会が殆どないが、利用者の中にはお金を所持しており、大切さを理解している。必要に応じて買い物の対応もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナの影響でリモート面会が軸になっている。手紙のやりとりについてはあまりないものの電話で近況報告しあうなど支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室または個人の居室にはネームプレートをつけ、混乱なく快適に過ごせるよう工夫を行なっている。また季節感を感じていただくため、四季折々のイラストや画像、行事のポスターを貼って意識付けしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の良い方、悪い方などを把握し、居心地よく過ごしていただけるよう、席の配置には気を配っている。入居者同士で自分の居室へ招待するなど良好な関係性を持った生活をさせている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるかぎり入居前から使用されていた家具を入居後も使用して頂くなど自宅の自室をイメージできる環境にし少しでも居心地の良い場所となるようご家族の協力を得ながら工夫している。お仏壇を置いている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手摺を付け安全面にも配慮している。他に月々の行事が文字や目で理解できるようにポスターに掲示している。		